

兵庫・玉津田中遺跡
たまつたなか



(高砂)

立地しているところが大部分であるが、標高二二m前後の洪積段丘上にも遺跡の存在を確認している。
呪符木簡が出土した遺跡は、径二・一m、深さ一・一mの円形の土壇で、壇底に礫をおき、その上に厚さ一〇cmほどの檜皮を敷きつ

- 1 所在地 兵庫県神戸市西区玉津町田中
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)五月～一九八五年三月
- 3 発掘機関 兵庫県教育委員会
- 4 調査担当者 山本三郎・加古千恵子・中川 渉
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～古墳時代、平安時代後期～鎌倉時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
三一haの調査対象範囲を玉津田中遺跡と呼称している。玉津田中遺跡は、明石川中流の左岸に広がる沖積平野(標高一六～一八m)に

めていた。木簡は、檜皮層の中から出土した。他に、火焰の形をした木製品、平瓦、土器が伴出しており、須恵器から平安時代末～鎌倉時代初頭に比定できる。

中世の遺構としては、池状遺構、鍛冶炉、溝状遺構などがある。池状遺構の上層からは、数万点におよぶ土師器の小皿・坏を中心とする完形品が出土しており、下層からは、将棋の駒、独楽、下駄、漆へらなどの木製品、漆器椀が出土している。また、同地区から、墨書土器も多く出土している。

8 木簡の积文・内容

(1) (符籙)急々如律令

(290)×37×3 059

出土した木簡は一点のみで、柾目材を使用しており、上端部は欠損している。判読できる文字の上部にも、墨書のあとがみえる。

(山本三郎)

